

家庭環境・親子関係から浮かび上がってくる 子どもたちの姿

斎 藤 哲 瑯
(川村学園女子大学)

1 はじめに

これまで、子どもたちを取り巻く問題としては、自立心や社会性の欠如、不登校、いじめなどが指摘されてきたが、最近では、親子間の殺傷事件や児童虐待の増加など家庭環境の悪化が心配される出来事が増えてきたように思われる。このような状況もあって、教育基本法や社会教育法には家庭教育に関する条文が設けられることになったのである。

教育基本法第10条第1項には、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする」と定め、その第2項に「国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない」と示している。

また社会教育法においては、国及び地方公共団体の職務として「社会教育が学校教育及び家庭教育との密接な関連性を有することにかんがみ、学校教育との連携の確保に努め、及び家庭教育の向上に資することとなるよう必要

な配慮をするとともに、学校、家庭及び地域住民その他の関係者相互間の連携及び協力の促進に資することとなるよう努めるものとする」(第3条3項)と定め、市町村教育委員会の職務に「家庭教育に関する学習の機会を提供するための講座の開設及び集会の開催並びに家庭教育に関する情報の提供並びにこれらの奨励に関すること」(第5条7)を求めているのである。

ウェブ上で子育て相談を行っているが、「子どもの成績は悪くないし、友だちともうまくやっている。ただ、一人っ子のこの子の将来を考えると親として何をしてやったらよいかよく分からないし不安だ」、「小6年の男の子。最近親の言うことを聞かなくなったが子育てを間違えたのだろうか」などの母親からの相談が多々ある。ちょっとしたことに不安を抱いている様子や、相談できる相手が周辺にいない状況が浮かんでくるのである。

そこで本論では、平成19年に行った「子どもたちの日常行動や親子関係、各種体験等に関する調査」～家庭における今日的な課題と問題点の検証～(川村学園女子大学子ども研究会)から、家庭環境や親子関係から子どもたちの状況等を明らかにしていきたい。

なお、調査の概要は次のとおりである。

① 調査の目的

近年、家庭におけるしつけの問題、子どもの遊び時間の減少、友だち関係の希薄化、いじめや不登校の問題、健康の問題など、子どもを取り巻く教育環境の悪化などから多くの課題や問題点が指摘されている。本調査は、子どもたちの日常行動、親子関係、各種体験等の実態等の把握・検証に努め、今日的な課題と問題点等を明らかにするとともに、今後の教育に必要な資料を収集することを目的とする。

② 調査の実施方法・調査の有効回収率

	全 体	学 年	
		小学5年生	中学2年生
1 実施方法	関東1都5県32校(小学校20校・中学校12校)を通じて配布回収		
2 子ども対象者数	3,003通	1,193通	1,810通
3 有効回収数	2,693通	1,085通	1,608通
4 回収率	89.7%	90.9%	88.8%

●調査期間：平成19年6月～7月。

2 家庭における親子関係

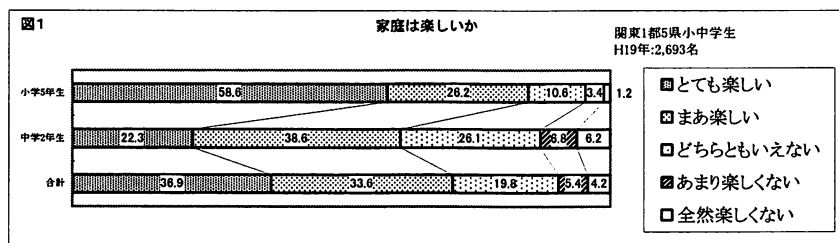
児童相談所における児童虐待相談件数の動向をみると、平成2年1,101件、同10年6,932件、15年26,569件、19年40,618件となり、平成19年は平成2年の実に40倍に達している。これは氷山の一角と思われるが、親子関係の歪みや子育てに悩み苦しんでいる保護者が間違いなく増えていることが、この数字からも読み取ることができるのである。

子どもたちのいわゆる“ブチ家出”は、家に居場所がなくなったことの証でもあるが、まずは「家庭が楽しいかどうか」を軸にして、親子関係を検証してみたい。

(1) 家庭は楽しいか

子どもたちに「家庭は楽しいか」と質問してみると、全体では「とても楽しい」36.9%、「まあ楽しい」33.6%と7割は「家庭が楽しい」と答えるが、「あまり楽しくない」5.4%、「全然楽しくない」4.2%と、「家庭が楽しくない」が約1割いるのである。(図1)

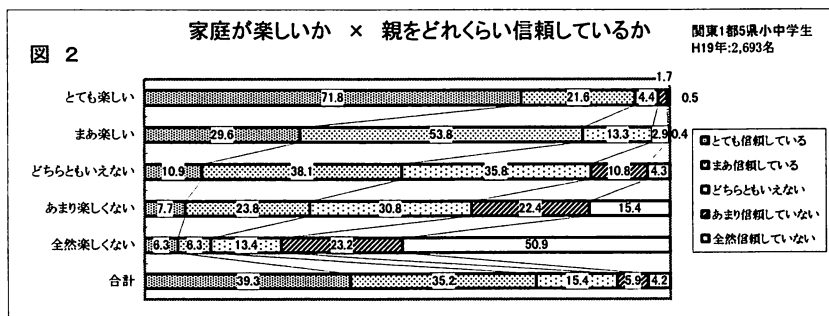
そこで、家庭が楽しい理由を聞いてみると、「家族の会話が楽しい」67.7(小学生72.6, 中学生63.1)%が圧倒的に高く、以下、「親が自分の話を良く聞いてくれる」46.7(小49.2, 中44.4)%,「両親の仲がよい」26.3(小25.8, 中26.9)%,「親に何でも相談できる」24.7(小31.9, 中17.8)%,「自分を信じてくれている」22.3(小25.9, 中18.9)%,「友だちを大事にしてくれる」13.2(小14.0, 中12.4)%などと答えるが、思春期と重なっていることの影響もあってか、特に「親に何でも相談できる」は中学生が小学生よりも14.1ポイント低いのが目立つのである。



(2) 「家庭は楽しいか」と「親子の信頼関係」

次に「親子の信頼関係」であるが、「親を信頼しているか」との問には、「とても信頼している」39.3(小57.4, 中27.0)%, 「まあ信頼している」35.2(小27.6, 中40.3)%, 「よくわからない」15.4(9.8, 19.2)%, 「あまり信頼していない」5.9(3.6, 7.6)%, 「全然信頼していない」4.2(1.6, 5.9)%のように答える。

これを、「家庭は楽しいか」とクロスしてみると図2のようになり、「家庭がとても楽しい」と答える子どもは、「とても信頼している」71.8%, 「まあ信頼している」21.6%, 「あまり信頼していない」1.7%, 「全然信頼していない」0.5%となる。また、「家庭が全然楽しくない」と答える子どもたちは、「とても信頼している」6.3%, 「まあ信頼している」6.3%, 「あまり信頼していない」23.2%, 「全然信頼していない」50.9%のようになり、家庭が楽しいと答える子どもに親を信頼している数値が圧倒的に高く、両者には強い因果関係のあることがわかる。 $(\chi^2=1763.5, P<0.01)$



3 親子の一日の会話時間

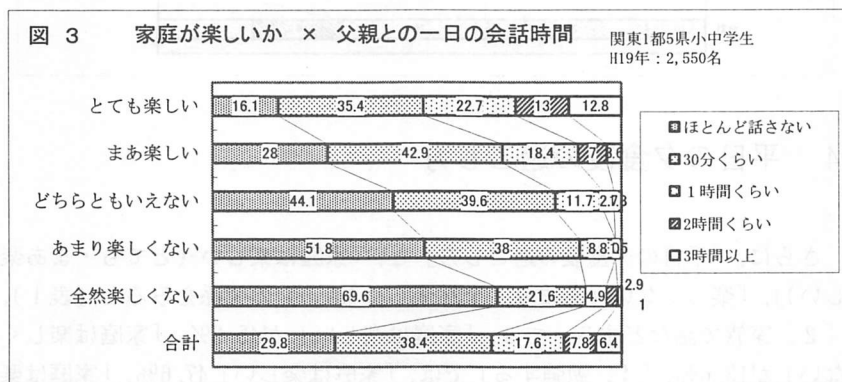
前項において、「家庭が楽しい」と答える理由に「家族の会話が楽しい」が最も高いことから、ここでは両親との一日の会話の状況を見てみたい。

(1) 父親との会話時間

父親との会話は、「ほとんど話さない」29.8%、「30分くらい」38.4%、「1時間くらい」17.6%、「2時間くらい」7.8%、「3時間以上」6.4%となる。

これに「家庭が楽しいか」とクロスしてみると(図3), 家庭が「とても楽しい」と答える子どもは「父親とほとんど話さない」16.1%、「3時間以上話す」12.8%に対して、「全然楽しくない」と答える子どもは、「父親とほとんど話さない」69.6%、「3時間以上話す」6.4%のようになり、「家庭が楽しくない」と答える子どもたちに父親との会話時間が極端に少ないことがわかる。

($\chi^2=387.8$, $P<0.01$)

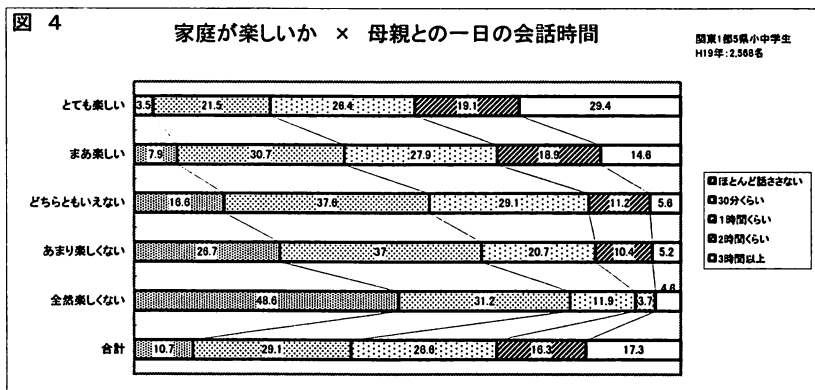


(2) 母親との会話時間

母親との会話時間では、「ほとんど話さない」10.7%、「30分くらい」29.1%、「1時間くらい」26.6%、「2時間くらい」16.3%、「3時間以上」17.3%と答え、父親に比べて母親との会話時間が長いことがわかる。

これを「家庭は楽しいか」とクロスしてみると(図4), 「家庭がとても楽しい」と答える子どもは、「母親とほとんど話さない」3.5%、「3時間以上話す」29.4%となるが、「家庭が全然楽しくない」と答える子どもは、「母親とほとんど話さない」48.6%、「3時間以上話す」4.6%のようになり、「家庭が楽しくない」と答える子どもの半分近くは母親と会話をしていないことがわかる。

($\chi^2=470.1$, $P<0.01$)



4 平日の夕食後の過ごし方

さらに、「平日の夕食後の過ごし方」と、「家庭は楽しい(とても・まあ楽しい)」、「楽しくない(あまり・全然楽しくない)」の関係を見ると(表1)、「2. 家族で話などする」では、「家庭は楽しい」が45.2%、「家庭は楽しくない」が13.6%、「4. 勉強する」では、「家庭は楽しい」47.6%、「家庭は楽しくない」32.7%のようになり、これら2つについては「家庭は楽しい」と答える比率が高いことがわかる。

一方、「1. テレビやビデオを見る」では、「家庭は楽しい」75.2%、「家庭は楽しくない」66.5%となり、「6. パソコンやメールをする」は31.1%と41.6%、「8. 友だちと電話する」は6.5%と14.0%、「9. 特に決まっていない」は14.8%と21.8%のようになり、「家庭が楽しくない」と答える子どもたちは、夕食後は家族から離れていっている様子が見ええるのである。ここに両親との会話時間が短くなる要因が隠れているように思われる。

表1 平日の夕食後の過ごし方 (%)

	楽しい(とても・まあ)	どちらともいえない	楽しくない(あまり・全然)	合計
1. テレビやビデオを見る	75.2	71.5	66.5	73.6
2. 家族で話などする	45.2	16.8	13.6	36.6
3. ゲームをする	33.0	35.1	37.0	33.8
4. 勉強する	47.6	40.4	32.7	44.8
5. 趣味のことをする	32.6	32.3	37.7	33.0
6. パソコンやメールをする	31.1	40.4	41.6	34.0
7. マンガや本を読む	44.3	44.9	44.4	44.4
8. 友だちと電話をする	6.5	6.8	14.0	7.3
9. 特に決まっていない	14.8	17.9	21.8	16.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

5 家の手伝いなどとの関係

枚数の関係で詳細なデータを載せることができないが、ここでは各種の体験に関する調査の中から「家の手伝いに関する内容」において「家庭がとても楽しい」の回答だけを取り上げてみたい。

その結果、「1. 家であいさつをする」、「2. 近所の人にあいさつをする」、「4. 食事づくりを手伝う」、「5. 食事の準備や後片付け」の4項目については、家庭でのお手伝いの比率が高くなり、ここでも家庭環境が影響していることがわかる。ただ、その他の「3. 食材を買いに行くこと」、「6. ゴミを捨てに行くこと」、「7. お風呂の準備等」3項目については、普段からあまり手伝っていない様子が見ええるのである。

表2 家の手伝いに関する内容
～「家庭がとてもし楽しい」～

(%)

	A	B	C	D	E	合計
1. 家であいさつをすること	1.5	2.4	4.0	13.7	78.4	100.0
2. 近所の人にあいさつをすること	1.8	4.4	8.9	28.8	56.1	100.0
3. 食材を買いに行くこと	16.0	21.3	24.4	24.6	13.7	100.0
4. 食事づくりを手伝うこと	9.1	19.0	21.7	30.1	20.1	100.0
5. 食事の準備や後片づけなどすること	4.4	14.7	16.3	29.4	35.1	100.0
6. ゴミを捨てに行くこと	23.1	23.0	17.6	20.4	15.8	100.0
7. お風呂の準備や片付けをすること	18.3	18.7	20.4	21.9	20.7	100.0

* A. 全然していない B. しなないときが多い C. どちらともいえない
D. するときが多い E. いつもしている

6 まとめとして

子どもたちに「学校が楽しい理由」を聞いてみると、「友人とのこと」86.0%が最も高く、「学校が楽しくない理由」は、「勉強のこと」58.8%、「友人とのこと」43.7%のように答える。このように学校では「友だち関係」が重要であることがわかるが、「家庭が楽しい」と答える子どもに「学校が楽しい」とする比率は高く、「学校が楽しい」と答える子どもは友だち関係も良好になることも明らかになってきた。さらには、「人に頼ること」「自分中心的なこと」「生活が不規則なこと」「ダメ人間だと思うこと」などとの関係も、家庭環境や親子関係の影響が強く表れてくるのである。

このように調査の分析からは、①家庭が楽しいと答える子どもは親子の信頼関係も良く、責任感などが強く、家の手伝いなども良く行っている傾向にあること、②家庭が楽しく親を信頼している子に、将来両親のようになりたいと希望する比率が高くなること、③両親との会話時間は父親よりも母親の方が長く、家庭が楽しいと答える子どもに会話時間が長くなること、④家庭が楽しいと答える子どもは学校も楽しく、友だち関係も良好であること、⑤家庭が楽しくないと答える子は、夕食後は、ゲーム、パソコン、メールをす

る時間が長くなり、その分親子の会話時間が短い傾向にあること、などの結果を導き出すことができたのである。

家庭は、自立心の育成、人間関係づくりなどの人格形成の基礎を培う場として極めて重要であり、それだけ親の責任と役割が問われることになるが、家庭においては心身の安らぎの確保と併せて、親子間の信頼関係が大切になってくる。特に、“人から認められたい”、“人のために何かをしたい”という気持は誰が抱くごく自然なことであり、教育が信頼関係の上に成り立つことを考えれば、家庭において子どもの存在を認めてやること、話をじっくりと聞いてやることなどに加えて、彼らの出番づくりが重要となってくるのである。そして、「楽しい家庭」が最も重要なキーワードと言えるのである。